

# 重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	資源物のリサイクルが進んでいる	
施策名	資源物のリサイクルを推進する	No.28

年度	平成27年度
責任部長	環境部長
主担当課長	清掃対策課長
関係課	施設管理課、農業振興課

## 1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
リサイクル(4R)を意識して生活している人の割合(%)	→	82.4	74.3	75.3	73.5	73.9	73.9	87.0
		73.9	75.0	71.4	74.0			91.3
市民一人当たりのごみ排出量(g)	→	1,106	1,104	959	930	908	897	1,101
		897	887	882	876			838
ごみのリサイクル率(%)	→	-	-	-	-	-	-	-
		18.6	18.4	18.1	16.9			29.7

## 2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

環境破壊による資源枯渇、資材高騰が話題となり、資源に対する関心は高くなっている。リサイクルの重要性が認知されてきており、企業による包装・梱包容器の減量化や民間によるリサイクル活動が盛んになり、資源物の排出量は減少している。

## 3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	<b>B</b> 停滞	平成20年度からごみの分け方・出し方を変更し、ごみと資源の分別と排出機会の増加を図った。「市民一人当たりのごみ排出量」は減少し順調な推移を示している。「ごみのリサイクル率」は民間による資源物の自主回収の普及が進んでいるため減少しているが、社会全体としては資源循環が維持されている。しかし、「リサイクル(4R)を意識して生活している人の割合」は、増減をしながら停滞している。
------	----------------	--



## 4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
リサイクルの循環の仕組みができている	市民がリサイクルの必要性を理解し行動している		
容器プラスチックリサイクル事業	資源回収推進協議会事業		
園芸用廃プラスチック適正処理対策補助事業	粗大ごみリサイクル事業		
資源収集事業	資源回収事業		
ペットボトルリサイクル事業	ごみ減量化推進補助事業		
可燃ごみ処理事業	小型家電回収事業		
リサイクルセンター整備運営事業			
資源物持ち去り防止事業			
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価	長期成果の設定は、資源物のリサイクル推進について「リサイクルの循環の仕組みができている」と「市民がリサイクルの必要性を理解して行動している」という切り口で捉えており問題はない。また、各事務事業についても、「資源物のリサイクルを推進する」を達成するために必要な事業である。リサイクル率が減少している点は、民間による資源物の回収方法が多様化しており、身近にある回収場所を利用していると考えられる。一人当たりのごみ排出量は減っている現状の中で、少しでもリサイクル意識の向上を図るため、今後も継続的に啓発活動を行っていく必要がある。		
次年度の改善計画	「ごみと資源の分け方・出し方辞典」(平成26年11月改訂)の活用や、ごみの分別区分や収集日を調べることができるウェブアプリ「一宮市ゴミチェッカー」の導入(平成27年7月公開)により、資源となるものは資源として排出していただくよう、「分別ルール」を周知し啓発活動を行っていく。		

\*\*\*\*\*

総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の評価書」から転記)

評価	<b>C</b> 悪化傾向	指標2は改善傾向であるが、指標1と指標3は悪化傾向である。市民がリサイクルに対して関心が低いと推察される。
----	------------------	---